

南のひと 05

写真・文=水野暁子

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。
暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を
込めて撮影している。



竹富島、種子取祭で地唄を務める生盛孫賢さんは、石垣島、沖縄本島、東京の仲筋郷友会の芸能に20年余りに渡り携わってきた。

宮良元保さんは石垣島仲筋郷友会から狂言を経て長年竹富島に通い、舞踊などの地唄を務めている。

地唄（じうた）とは、舞踊の背景を唄と三線で演出する人をいう。

表からは見えないが、その存在と責任は重大だ。踊り手はその唄と三線に合わせ舞踊る。

幕間には目で語り合い、全身を音に集中させ、ちんだみ（調弦）を行う。その研ぎ澄まされた緊張感ある姿が格好良い。

私がまだ大学を卒業したばかりの頃、舞台セットを造る職人のアシスタントをしながら写真を撮っていた事があった。彼が事あるごとに「ただの良い人には、なるなよ」と言っていた。

以来、ただの良い人ではない人に出会うと心がざわめく。

水野暁子 みずのあきこ

1973年千葉県に生まれる。1986年に家族とアメリカへ渡る。1996年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

- 石垣島写真美術館 Mira にて、「南のひと」シリーズより11点の作品を展示中。2019年1月15日まで。
- 島人へのインタビューをまとめて紹介している YouTube チャンネル「八重山ライブラリー」も。